

需要拡大シリーズ：消防署の木造化から見えるもの －公共建築物木造化のシンボルではないのか－

埼玉県秩父市の消防署の建物が木造化されている。分署毎に次々と木造化されている。木造化の中で、最も建築が厳しいとされていたのは、その建築発注者の反応から消防署と銀行だったが、実例が出来たのは画期的である。よく木造が建たないのは消防法が悪いと言う人がいるが、建てられるか建てられないかでいうと法律上そんなことは無い。それより、消防署長の同意が必要なんだが、木造に対する理解が無いのが実態である。過去何度か行われた実物大火災実験に立ち会うと必ず消防関係者は「おかしいな、燃えないな」と言っている声が聞こえる。関係者には、木造は、一本で耐火木造、準耐火木造があることや古い木造と新しい木造をひっくるめて木造という傾向が強い。こうした中の木造化で、写真で見ると救急車が車庫の中に写っている。もちろん、古い街並が市のイメージでその景観に合わせてあることも一因だが、市長の意向によってできるのである。

取材した者によれば、別の効果について説明されたとのことである。何かと言えば、消防署員は24時間体制で勤務しており、精神的、肉体的にもきついですが、木造、木質の方が断然やすらぎ感が違うということだ。日本国中類似した職場環境は沢山ある。

海上保安や气象台、自衛隊、警察等の職務はもちろんのこと、ビルの警備室やOA機器のメンテナンス会社にも同様の事が言える。

職務環境としても重要である。ふと思えば、病院の病室の話をお医者さんから聞いたことがある。寝たきりで入院すると、天井しか毎日見えない。天井が真っ白だとつらいそうである。そのため、天井に木の木目があると良いらしい。とりわけ節があつたり、木目が流れている方が更に良いと。確かに古い木造病院は天井に木があつたなあ～と思いがすが、構造だけでなく、働いている、生活している人の環境を考えることが、今後更に必要なことである。

とにかく、消防署の木造化木質化が各地で広がっていることを念願するものである。次は、自慢できる銀行等金融機関の事例を紹介できる日を楽しみに・・・。



